

小杉町談笑会との市長と能ん美りカフェトーク

日 時 令和5年10月12日（木）10時～11時

会 場 小杉町集会所

参加人数 14人

○開会

○市長市政報告

令和5年度予算編成方針の説明をさせていただく。今能美市の施策というのは7つの柱から成っていて、今年度の方針目的が5つある。

・災害対策、これは昨年8月4日の大雨を受けてしっかり対策していかないといけないということ。

・カーボンニュートラル、CO₂を削減しないと異常気象になったり農業に影響があったりするということで、カーボンニュートラルにしようというのがGXの推進。

・自然動態の増進というのは、人口というのは社会動態と自然動態があり、引っ越して行く人よりも引っ越してくる人が多いと社会増、亡くなる人よりも生まれてくる赤ちゃんが多いと自然増で、ぜひ自然増を目指そう。子宝に恵まれ、そして健康寿命を延ばしていこうというのが自然動態の増進。

・知名度・認知度の向上は、いろんなことをしていく上で能美市という地名を皆さんに知っててもらわないと能美市に訪ねてくることもないだろうし、何かしたいと言っても能美市ってどこだろうとなってしまうので、知名度・認知度、能美市という地名をどんどんどんどん広げていこうというのが知名度・認知度の向上です。

・市民力・地域力の強化は、何をするにしてもやはり市民の力がないとできない、地域の団結力がないとできないということが、この地域力の強化です。大きな災害が起きて避難をどうしていくかというときに、やはり地域の皆さんみんなと一緒にやっていかないといけないというのがこの市民力・地域力の強化です。

・全ての施策が移住・定住の促進につながるということで、自治体の勢いを示す数値というのはいろいろありますが、人口が増えているというのがその自治体の勢いが一番分かる

のではないかとということで、移住・定住の促進をしていくのが令和5年度の予算方針です。

- ・今、デジタル技術をどんどん導入しようとしているので紹介させていただく。

- ・医療介護情報連携システムというのは、病院に入院して退院して、自宅で療養する場合に、かかりつけ医さんとかケアマネさんとか薬剤師さんが病院でどんな治療を受けたか、どんな薬を飲んでいたかは実は分からない。カルテが違うから。お医者さんが変わるとカルテが変わって、どんな治療を受けていたか、どんな薬を飲んでいたか分からない。それを分かるようにしよう。Web上のコンピュータの中にそういった情報を入れておいて、必要なときに必要な情報を取り出せるようにしましょうということを考えている。独り暮らしの人が具合が悪くなって救急車を呼んだら、救急隊は病院に連れていくときにどんな病気にかかっていたか、どんな薬を飲んでいたかが分からないと病院に連れていけない。そんな情報も取れるようにしようというのがこの医療介護情報連携システムです。

- ・認知症の人が家からいなくなった。探さないといけないときに、能美太郎さんだったら名前しか分からないけれど、こういうスマホにその人の特徴、写真とかが出ると分かりやすいですね。今こんなことが始まっていて、搜索に協力してくれる人を事前に登録してもらい、それで能美太郎さんがいなくなったら、その人の携帯等にこんな顔だと写真がばっとう出る事になっている。そうすると探しやすくなるということを、これはもう始まっていて、もうやっています。

- ・IoT家電の活用というのは、これ最近の家電、電化製品は喋るんです。例えば空気清浄機に朝スイッチ入れると、「今日は10月12日木曜日です。今日の天気は晴れです」、それから「ご飯食べたましたか」とか「おやすみなさい」と言って声をかけてくれる。それから、エアコンの場合はスマホに「部屋が暑くなっているのでエアコンの設定温度を確認してください」というお知らせがある。空気清浄機とかエアコンが空気の流れとかを分析して「最近寝るのが遅いけれど大丈夫ですか」と声をかけてくれる。「体調に異変がありませんか」というようなことをスマホに教えてくれる。

- ・もっと進化させて、能美市から大雨警報が発表された。それから、避難指示が発令された等の危機管理情報が出るようになる。例えば皆さんの家に防災行政無線がありますけど、ほとんど台所や居間にあると思います。寝室では聞こえないですね、その時にエアコンとか空気清浄機が喋る。空気が全然動かなかったり、しばらくスイッチが入らなかつたりすると、「能美太郎さんの安否が確認できません」と登録してあるケアマネさんや家族のス

マホに知らせが行くようになる。こういった事を今始めようと準備している。

・今市内に約2,600世帯の独り暮らし世帯があるが、その中でまず100世帯を選んで試験を始めていき、そこで好評であればさらに広げていこうと考えている。ほかにもこのIoT家電を使っているいろんなことをやりたいと計画しているので、もしこんなことはできないかとか、こんなアイデアがある、ということがあれば教えていただければと思う。

○意見交換

(市内の観光地や市の施設を巡る体験バスの実施はできないか)

【市長】 一番最初に、市内の観光地や市の施設を巡る体験バスの実施、県政バスのようなことができないかというご提案があった。実は今あるんです。「のみぐる」という、こういったバスがある。これは、辰口の福祉会館が主催をしていて、皆さんが行きたいなと思うところにバスで連れていってくれる。そして、福祉会館でご飯を食べるのがセットになっている。

コロナの感染が拡大していたので休止していたが、今また再開しているので今年はもう無理かもしれないが、来年ぜひ回ってもらえたら。市内にいろんな新しい施設もできていますし、個人で行ってもその中をなかなか説明することができないので、例えばこういったバスで登録してもらえば、能美ふるさとミュージアムでは学芸員が丁寧に説明をしたり、そのほかの施設でも説明することも可能ですので、ぜひ申し込んでみてほしい。お昼は福祉会館です。おいしいのでぜひ食べてみて。

【参加者】 お食事は福祉会館に限定されるのか。

【市長】 それがセットになっている。

【参加者】 入館料とかは。

【市長】 それは別。お配りしたチラシに料金等も出ているので、見てもらっていいなと思ったらぜひ申し込んでもらえれば。

(のみバスについて)

【参加者】 この間、今日の参加者でのみバスを体験してみた。のみバスが通っているけれど、ほとんど誰も乗ったことがないので、せめて寺井の中を循環して、私達も粟生の方になってくると、大通りはたまに通っても町内は通ったこともないから、体験してみようってみんなで乗ってみた。私も車に乗れなくなるとどうして生活しようかなというのがいつも

頭にあるので、乗ってみてバスの生活もできないことないなと思った。

【市長】ありがとうございます。

【参加者】カートを押した人や、杖をついた人も混ざってバスに乗れるかどうか体験してきた。そのときにバスの中から外を見てると、「こんなところ通ったこともないね」と言いながらいろんな景色を見て楽しんできた。

バス停のところに待っている人、外から見てると何か荷物を持って立って待っているけど、ちょっとつらいだろうなと。各停留所にのみバスのキャラクターでも描いたかわいらしいベンチがあったら、そこで座れたら安心して待っていただけるのになと思った。雨が降ったらどこか軒下にいるとしても、やっぱり高齢者は早くから行って、10分前から行ってそこで待つので、立って待つよりも能美市のキャラクターを描いたベンチが各停留所にあったらいいと思う。

【市長】 市内に今バス停が約210ある。なかなか全部置けないということがあったり、それから道路沿いだと危険なので椅子が置けない。今、停留所で利用者が多いところ、それから交通の安全上問題がないところには置くようにしているが、なかなか全部というのは難しい。

結構いろんな皆さんのお話聞いて使いやすいようにはしていると思う。例えばルートや、停留所、あと発車時刻も毎時全部同じにしてある。そうすると、分かりやすかったり、1時間で次の用事ができて、また乗れるようになってしてあって、もし皆さん本当にこうやって使っていただくようになったときに、こんなルートで、それからこんな停留所が欲しいということあれば、ぜひおっしゃってもらえればと思う。

【参加者】小杉のもっと町内にバス停が置けないかと思う。

【市長】分かりました。どれだけ利用者がおいでるかということが重要なので、ぜひ使ってください。100円です。循環バスから連携バスに乗り換えても100円なんです。

【参加者】乗換券ってあるんですか。前あったけど、今もあるんですか。

【市長】バスを降りるときに運転手さんに連携バスに乗りたいと言うと、出してもらえる。皆さん、スマートフォンお持ちですか。持っている人がいたら、「のみバスGO!」というアプリがあって、自分が乗りたいバスが今どこを走っていて何分後に来るかも分かる、バスの混雑状況も分かる、ルート等も全部検索できるので、よければ使ってみて。

(災害時の避難場所について)

【参加者】災害時の避難場所などについてですが、最近すごく水害であったり地震であるとか台風であるとか、そういう災害が多いが、昨年も梯川の堤防が決壊して、中海、国府地区が甚大な被害を受けました。その数か月後に梯川のほうへ行ってみると、上流に向かって右側のほうの湾曲した部分が決壊していた。

あれがもし反対側のこちら側だったら、小杉もああなるんだと恐ろしくなった。そのことを地元の議員さんに話したら、湾曲しているところは内側のほうが切れやすいと言っていましたけれど、自然のことですからどっちが切れるかも分からず、本当に恐ろしいなと思った。

小杉も10年ほど前に大雨で八丁川か鍋谷川かが決壊して避難した。町内で最初公民館に避難して、それからバスで寺井中学校へ移動して、最終的には寺井地区公民館へ行って、あそこで一昼夜お泊まりした方もたくさんいた。日中ほとんどの若い人が仕事に行く。そうすると、町に残っているのは年寄りばかり。どんな形でどうやって避難するのも自分で考えたりもする。

以前、市の方がここに来られて説明されたときに、小杉の避難場所は長野公民館だと言われた。何でかと思ったら、2階以上の建屋じゃないと避難できないので、この近くの公共の施設は長野公民館だと。そんなことは不可能だろう、長野の大きい町内に小杉が入っていけないだろうと思う。

そんなことを考えると、大長野の第二体育館が使用できなくなってから随分たつが、そのままの状態である。あの場所のあたりに災害のときに、長野や小杉の人が避難場所として利用できるような、2階建て以上の施設があったらいいと思うがどうか。

【市長】災害にもいろんな災害がある。例えば地震の場合はどうするか。今おっしゃられる2階というのは多分大雨とか洪水ということだと思う。市内の場合には指定避難所といっているいろんな災害があった場合ここに逃げてくださいというところが決めてあって、寺井地区公民館だとか、寺井小学校の隣にある体育館だとか、あとは寺井中学校とか小学校とかがあっていうことになっている。

さっきおっしゃった大長野公民館というのは、多分その説明の仕方が悪かったのかもしれないけれども、ここも避難所になっている。というのは、一次避難所と言って、まず、一回ここに逃げてきてください。それで、その次にどうしましょうかということをもた皆さんにご連絡しますという、そんな2段階の段取りになっている。

避難所というところは、地震の場合は耐震化になってないと駄目だとか、冷暖房が効か

ないと長くそこにいられないとか条件があるとする、指定避難所にできる場所というのは限られていて、さっき申し上げたようになってくる。

昼間どうするのか、これはもうおっしゃるとおりで、今皆さんにお願いをしているのが、「わたしの避難計画」、個別避難計画を順次つくっていってもらうことをお勧めしている。

おっしゃるとおり、昼間だったら誰も助けてくれないんじゃないかという場合に、あらかじめこんな人にお願いをしてありますとか、こんな人に協力をしてもらうことになってますという計画をつくってもらって、ご家族だとか町会長さんとか民生委員、児童委員さんとかと共有してもらって安全・安心に避難をしてもらおう、ということを考えているので、順次作っていってもらえればと思う。

【参加者】個々につくるんですか。

【市長】そうです。ご家族単位で。そうすることによってきちっと確認をしていかないと、いろんな災害があるので、それに全て対応しようということになるとどうしてもこういった形のものを作っておいてもらわないと、我々も対応できないし、皆さんも安心して避難できないんじゃないかと思いますので、ぜひこういったことを検討していってもらえれば。

【参加者】個別避難計画というのは、もう各家庭に案内が行っているんですか。

【市長】まだ行っていない。今から順番にやっていく。これはつくるのに結構時間かかるというか、やはり誰に助けてもらうんだとなると、なかなか家庭だけではつukれない。そうすると、町会だとか、皆さんの協力を得ないとつくっていけないので、8月4日の大雨で被害が大きかった集落から順次広げていっていて、また小杉のほうにもお願いすると思う。

【参加者】それあるといいですね。ちゃんと決まっていれば、いざというときにうろたえることがあまりないですね。

【参加者】けれど、そのデータを町会とかで管理しないといけないということですね。

【市長】そうですね。

【参加者】町会で管理はもちろんしないといけないが、最終的にはやっぱり各個人がしっかりとこうなった場合はこういう避難経路とか、そういうことを自分で確認しておかないと。最後はやっぱり個人なんだろうと思う。

【参加者】75歳以上の高齢者のみの避難訓練というのをしましたけど、まさしくこれが必要だと思う。手押し車引いとるおばあちゃんとかそんな人たちを、少し大丈夫な人が介護しながら避難するとか、本当に必要だなと避難訓練のときに思った。

【市長】雨の程度にもよりますけど、ご自宅の2階が避難場所になる場合があるかもしれない。例えば急に雨が強くなって夜だったという場合に、やっぱり逃げるというか避難すると危険だという場合には垂直避難というんですけど、2階に避難してくださいというケースもあるかもしれない。

だから、一概に避難所に行くということだけでなく、どうやって安全な場所に移動するかが一番大事だと思う。あとは安否確認。皆さんのご家族がどこに行っているのか、それをどう伝えるかも大事だと思うので、そんなことも考えながら、こういったことにも取り組んでもらえばと思う。市でもサポートしているので、一緒に相談しながら一つ一つ丁寧につくっていききたいと思う。

【参加者】去年8月4日の水害で低いところは水がついて、避難まではいかなかったけれど、避難所を開設した。小杉は何回も避難しているからに慣れっこになって、来た人は2人だけだけれど。最終的に町会の役員の方々と高齢者とか独り暮らしの方については、その家へ行って避難をさせるというような、そんな対応を取っている。

【市長】例えば台風なんかのときに、やっぱり一人で家にいるのが不安だという人がいらっしゃる。そんな場合に、能美市では自主避難所ということで、この寺井地区でいけば寺井地区公民館内にそんな場所を設けて1晩泊まっていてもらおうというようなこともやっている。

【参加者】先ほども話出しましたが、大長野体育館です。数年前から時々話題にのぼるんですが、これからどういうふうになるのか。

【市長】本当はすぐに壊したいが、様々な事情がありすぐに壊せない。皆さんに迷惑かけないようにしていきたいと思う。あの場所は別の形で利用していきたいと計画をしている。

【参加者】分かりました。はっきり何年とかはまだ分からないか。何年先とか。

【市長】まだ、いろいろ計画が整っていない。何をするにも予算が必要で、いろいろな事業で必要な部分があって、順番がなかなか回ってこないというようなこと。危険がないようにだけはしておきたい。

(交通安全について)

【参加者】インター八里から小杉方面へ向かってくるときに小杉に入るところに信号機があって交差点がある。その信号機があるところを曲がる人はほとんどいない。というのは、

その交差点は小杉をちょっと通り過ぎた外れにある。だから、ほとんどの方はその手前の道から入る。手前の道で右折しようとする、結構スピードも出すところなんで後ろから追突されないか心配だと。そこに右折専用帯を作ってもらえないかと。能美市なのか県なのかちょっと分からないし、今すぐできるような話でもないとは思っている。

【市長】 ちょっと承っておいて、道路管理者か警察にも言ってみます。対策、事故が起きないようにすることが一番なので。

(能美市のPRについて)

【参加者】 今ほど市長さん、能美市の定住促進に向けての方針で、大きく5つほど言われた。その中の一つの知名度・認知度を上げるということで、有名人の方からのPRとか、そういうのももちろん効果があると思う。私も一緒に思いで、能美市（のみし）なのに県外の友達なんかは「のうみ」とかって言う。同じような気持ちだったんです。本当は「のみ」なのに何で「のうみ」と読むんだろうと思っていたので、市長さんもそんなふうに言われたんで、私ちょっと考えたんです。せめて能美市のみんなが年賀状、県外へ出す年賀状に読み仮名をつける。読み仮名大作戦。1年じゃ駄目だから、毎年続けていく。5年なり10年なり、県外へ出す年賀状に自分の住所に読み仮名をつける。能美市（のみし）と。何年か経つにしたがって何年後かには効果が出てくるのでは。

【市長】 いい案だと思う。私自身も年賀状書くときにふりがな書いてないなと思いながら。どうやって皆さんに協力を依頼できるか考えてみたい。全国に今大体1,750の市、町、村がある。そんな中で、どうやって能美という地名を皆さんに知ってもらうか。

例えば今企業誘致がすごく好調で能美市は人材不足。誘致した企業でたくさんの人に働いてもらうようにしないといけないが、既存の企業さんから誘致した企業のところに人が行ったら、誘致した意味がない。そうすると、大都市圏から帰ってきてもらって、地元の会社に勤務してもらおう。その為にも能美市という地名をどんどん広げていきたいと、いろんなことやっている。

例えば松井秀喜さんに登場してもらって、松井秀喜さんが自分のキャラクターのところでアフレコというが、声を入れてくれた。そしたら、松井さんがアフレコしたのはあれが初めてだったみたいで、全国放送でニュースに何回も取り上げられた。そんなことでやっぱり能美市の知名度がぐんと上がったりするので、何かもっと知名度が上がるようなことができないかいろんなことやっている。

（市立病院について）

【参加者】この間能美市立病院に9時に予約して行っただが、12時になっても診てもらえなかった。何故かという、いつも3人いる先生が、その日は1人お休みで2人になったから。

【市長】その日どんなことがあったかは分からないけれど、今、整形の先生2人常勤でおいで、すごい人気です。それでお待ちになったのかもしれませんが。基本予約ですから、そんなお待ちになることはないのかなと思う。いつのことかわかりますか。

【参加者】随分もう半年よりもっと前です。

【市長】半年ぐらい前か。ちょっとどんなことがあったか一回調べてみる。

【参加者】市立病院には固定の先生っていうのはいらっしゃるんですか。回っていらっしゃる先生ですか。

【市長】内科の院長先生や副院長先生は固定です。脳神経外科も、外科の先生も固定。それから、今、松任中央病院から先生来てもらっていて、常勤医で11人体制、過去最高なんです。その先生の力量もかなり高いと聞いている。

（国民文化祭について）

【参加者】国民文化祭ですが、能美市、今日の新聞見たら、県内の催し物、開催場所とか一覧載ってたんですけど、能美市何かないかなと見たけど、能美市がなかった。

【市長】今日の新聞は石川県と金沢市が出した広告だと思う。能美市の催しは皆さんのところにパンフレットが行っていると思う。あれを見てもらえば、どこで何をしているかが分かると思うので、ぜひお越しください。明後日からいろんなことをやります。

○閉会